

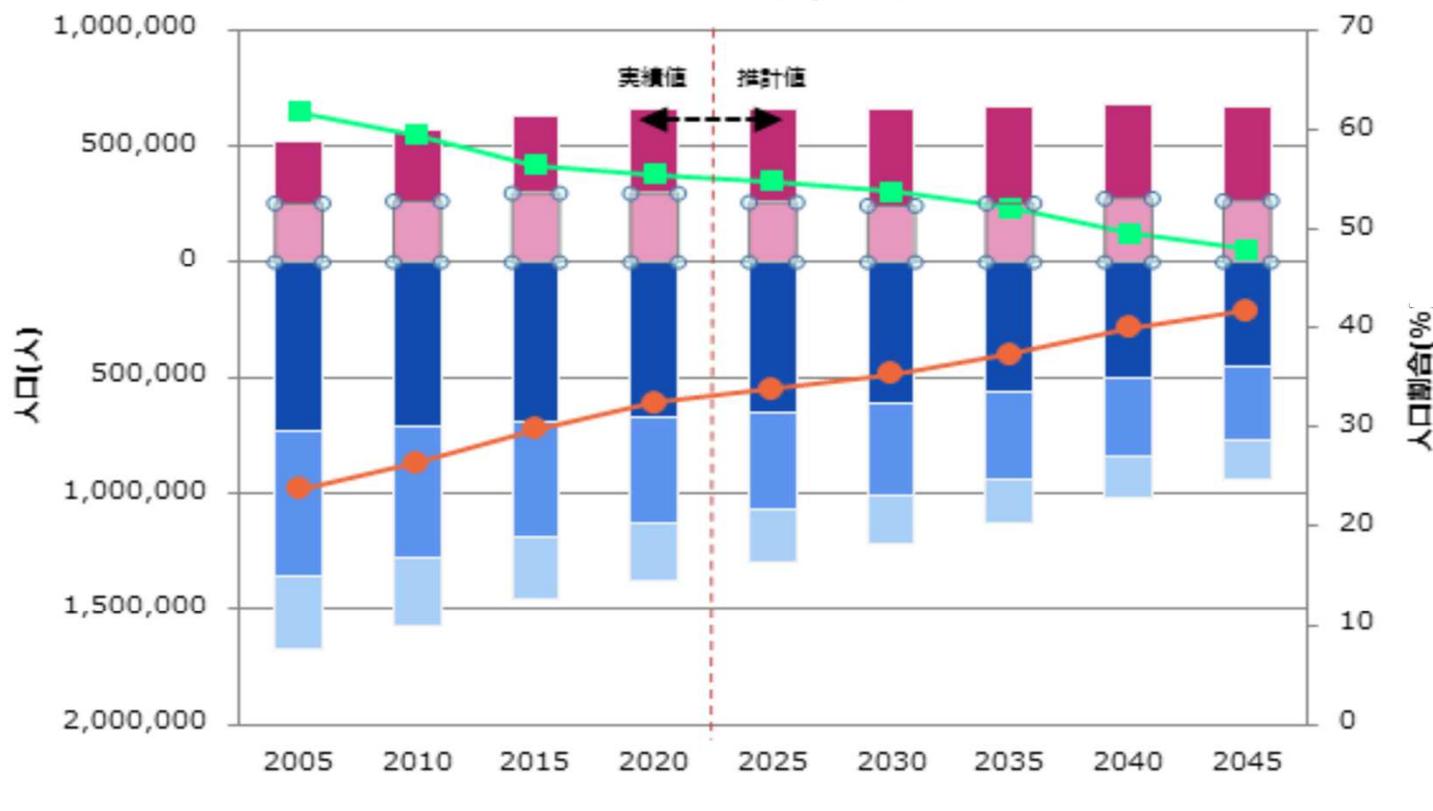
人生二毛作社会推進事業について

健康増進課

1 長野県の人口推移と将来推計

- 県内総人口が減少する中で、65歳以上の高齢化率は増加が続いている。
2020年は3人に1人が高齢者であるが、2045年には約2.4人に1人が高齢者となると推計されている。（長野県の高齢化は全国的に見て早い。）

長野県の人口推移と将来推計



長野県の高齢化率の推移		
年	高齢化率(%)	都道府県順位
2021年	32.3	19位
2045年(推計)	41.7	9位

内閣府「令和4年度版高齢者白書(全体版)地域別に見た高齢化」

- 75歳以上
- 65歳～75歳未満
- 15歳未満
- 15歳～40歳未満
- 40歳～65歳未満
- 高齢化率
- 生産年齢人口割合

(出典) 2000年～2015年まで：総務省「国勢調査」

2020年以降：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」

2 平均寿命・健康寿命

- 長野県は健康寿命が男女ともに全国トップクラス（男性は全国1位から陥落）

健康寿命上位3都道府県（日常生活動作が自立している期間の平均）

（歳）

順位	平成25年			
	男性		女性	
	全国平均	78.7	全国平均	83.4
1	長野県	79.8	長野県	84.3
2	滋賀県	79.5	大分県	84.1
3	熊本県	79.4	滋賀県	84.0

（歳）

順位	令和2年			
	男性		女性	
	全国平均	80.1	全国平均	84.4
1	滋賀県	81.3	長野県	85.2
2	長野県	81.1	大分県	85.2
3	奈良県	81.0	佐賀県	85.2

【算出方法】介護保険の要介護度2未満を健康な状態として、算出。

【出典】H25年調査、厚生労働科学研究班「介護保険の要介護度」
R2調査、公益財団法人国民健康保険中央会「平均自立期間」

3 人生二毛作社会推進事業

○ しあわせ信州創造プラン2.0 重点政策「人生二毛作社会の実現」に向けて、シニア世代が、培ってきた豊富な知識と経験を社会参加や仕事で活かし、地域の担い手として元気に活躍できる人生二毛作社会を推進

人生二毛作推進県民会議の開催

- ・ 関係団体（17団体：商工会、シルバー人材センター、社協、JA、観光機構等）
- ・ シニア活動推進コーディネーター
- ・ 県関係課

各圏域の活動事例・課題の共有

解決策の検討・県施策へ反映

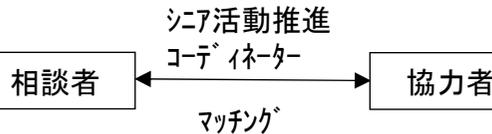


シニアが地域で活動できる仕組みづくり (地域単位 (10圏域))

ネットワーク会議 (広域的かつ多様な主体との連携)

- ・ 関係団体（市町村、社協、シルバー人材センター、ハローワーク、NPO、公民館等）
- ・ シニア活動推進コーディネーター（事務局）

地域の課題に応じる相談窓口機能

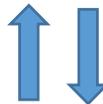


シニアの活躍の場の提供・社会参加活動を普及啓発

- ・ タウンミーティングの開催
- ・ 信州型コミュニティスクールの支援
- ・ 子ども食堂の支援
- ・ 地域の居場所づくりの支援

地域で活動できる人材の育成

- ・ シニア大学による人材育成



4 令和3年度人生二毛作推進県民会議

○第1回全体会議（R3.12.9）、第2回全体会議（R4.3.3）

○定年後の現状

- ・居場所と役割がない
 - ・居場所の情報が不足
 - ・時間の過ごし方が分からない
 - ・仕事以外の居場所を知らない
- etc...



○定年後、居場所を作るのに必要なもの

- ・自分の強みを理解すること
- ・能力を再開発すること
- ・地域とつながる場所
- ・シニアニーズとのマッチング
- ・地域のシニアキーパーソンの存在

○「人生100年時代」をどう生きるか

- ・地域とのつながりが必要
 - ・仲間を作って楽しく過ごしたい
 - ・新しいことに挑戦する
 - ・人の役に立ちたい
 - ・意識的につながっていくことが重要
- etc...

★課題

- ・シニアと、居場所を提供する側が情報を共有する場がない
- ・シニアの居場所は多種多様だが、居場所を作りたいシニアと、地域社会のニーズがマッチングしていない

○本人（現役世代）に対するきっかけづくり

- ・定年後の人生を具体化
- ・会社以外の社会とつながる（仕事以外の関係構築）
- ・世代で区切らない生涯学習
- ・自分の活躍できる場所の開拓（スキルの活かし方）
- ・職場からの情報提供（セカンドキャリア等）

現役時代から今後の人生について考えることが重要！



★まとめ

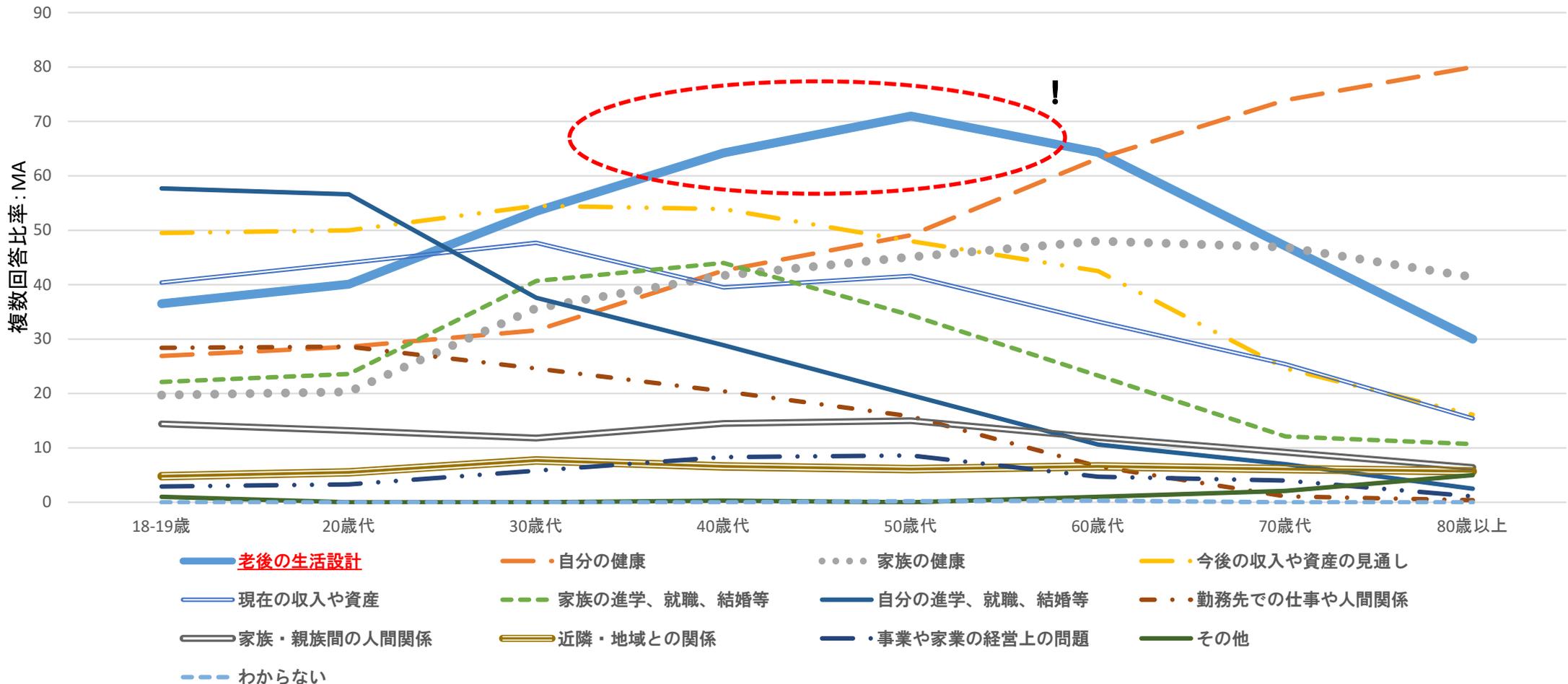
- ・人生100年時代を生きる中で、生きがい・居場所が必要。生きがいは他者とのつながりにより生まれるものが多い。
- ・現役時代から自分の将来の生きがい・居場所について考える機会を得ることが重要。

5 各世代の将来に対する不安

○中高年の日常生活での悩みは、老後の人生設計に対することが一番多い
 →現役世代である中高年に対して「退職後の人生を充実させるライフデザイン」の啓発を
 早期に図る必要がある。

(設問) 日常生活での悩みや不安を感じているのはどのようなことについてですか。(複数回答)

n=3,469



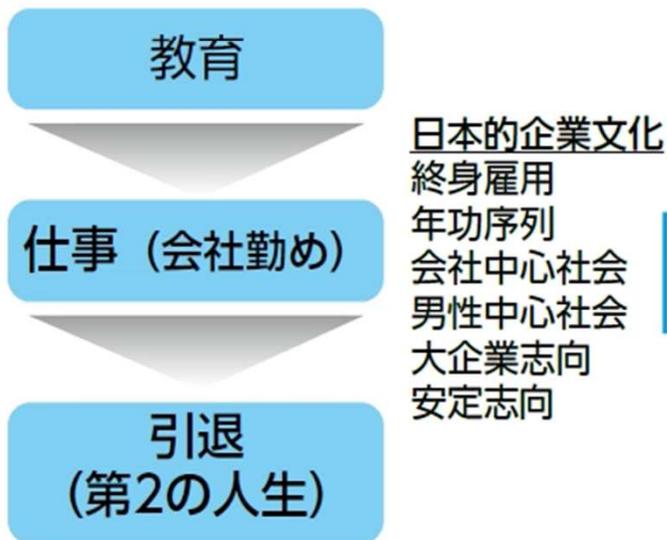
【出典】R元年6月調査、内閣府「国民生活に関する世論調査」

6 今後の展開について

- 人生100年時代の到来によるライフスタイルの変化
- 現役時代（中高年）中高年のうちからその後の人生設計を意識できる仕組みづくり
→シニア活動推進コーディネーターによる企業での研修・公民館等を活用した社会教育を今まで以上に行うことにより、現役世代に対する啓発活動の実施

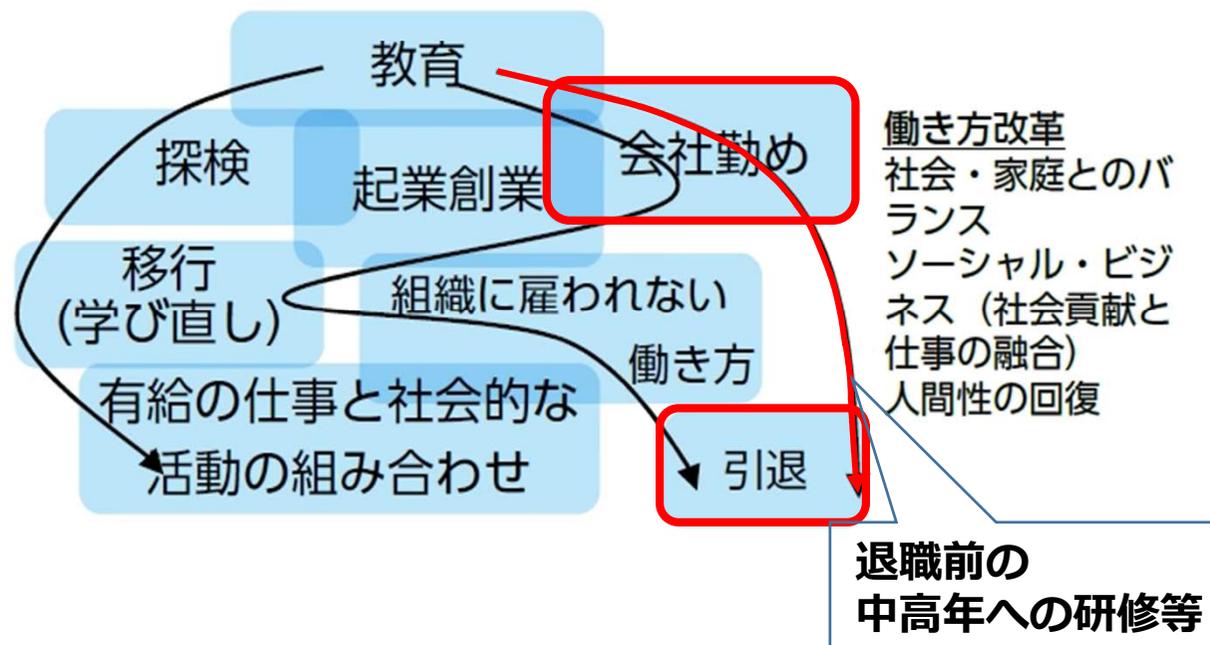
【これまでのライフスタイル】 → 【これからのライフスタイル】

◆1シナリオ&3ステージの人生



変革

◆マルチシナリオ&マルチステージの人生



7 次期総合5か年計画における位置づけ

- 令和4年11月に長野県総合計画審議会から次期総合5か年計画の計画体系等が答申された
- 政策の5つの柱の一つ「誰にでも居場所と出番がある社会をつくる」の施策例に「高齢者の活躍の支援」が明記されている

現状と課題 (長野県を取り巻く状況)

- ・少子化と人口減少の急速な進行
- ・社会に存在する様々な格差
- ・東京一極集中から地方分散への動き
- ・ライフスタイルや価値観の多様化 等

計画体系

長野県を取り巻く状況を踏まえ
政策構築・推進に当たっての共通視点

- ・少子化を食い止め人口減少に対応する
- ・社会的公正や多様性、包摂性を追求する 等

基本目標

確かな暮らしを守り、信州からゆたかな社会を創る

政策の柱

- 1 持続可能で安心した暮らしを守る
- 2 創造的で強靱な産業を育てる
- 3 快適でゆとりある暮らしを創造する
- 4 誰にでも居場所と出番がある社会をつくる
- 5 誰もが主体的に学び続けられる社会をつくる

めざす姿(抜粋)

・年齢、性別、国籍、障害の有無にかかわらず、誰もが個性や能力を発揮し活躍するとともに、他者を認め、思いやり、共に支え合う共生社会が実現

施策の例

高齢者の活躍の支援 等

8 人生100年時代シニア活躍推進事業

○次期総合5か年計画における事業の位置づけ等から総合的に判断し、事業名等の変更を行う

⇒人生100年時代に突入し単線型から複線型のライフステージに移行する中で、シニアが様々な居場所・出番で多様な活躍をすることを目指し、

「人生100年時代シニア活躍推進事業」とし、これに伴い本会議名を「人生100年時代シニア活躍推進県民会議」とする

シニアの活躍を推進する仕組み

圏域

